

すずかけの木かげから（2021. 6. 4.）

『運動会のその後・・・』

運動会までの取組、当日の力みなぎる姿も素晴らしかったのですが、運動会後の振り返りの言葉には一層、子どもたちの可能性を感じます。ある高等部の生徒は「実行委員長としては、皆が盛り上がっていたので最高の運動会だったと思います。」と書いていました。周りの友達や後輩の姿に満足感を得て、実行委員長としてのやりがいや達成感を感じていることが、生徒の心の成長につながっているように感じられます。また、高等部のある生徒は、「(綱引きでは)みんなでどうしたら勝てるか練習しました。そしたらコツをつかめてきたので自信ができました。(中略)これから就職活動をするので、それに向けていろんな準備をしていきたいです。」と綴っており、運動会で自信をつけた自分を更に一歩前進させようという心の奥底の声を感じます。運動会には、子どもたち一人一人のストーリーがあります。

『表現すること』

この時期、小学部や中学部では、図画工作、美術の授業で感性豊かな創作活動が繰り広げられています。小学部では、『からだをつかって表現しよう』、中学部では『GIGAねんどで遊ぼう』という取組がありました。小学部5・6年生は、梅雨の晴れ間の青空の下、広いビニールシートやビニール傘、合羽にダイナミックに絵を描いていました。合羽を着た自分自身に色を付け、重ね、教師とも塗り合いをしてダイナミックに楽しむ姿は創作活動によって心がのびのびと広がっていくようでした。また、中学部は、紙粘土で作ったモチーフをタブレットで撮影して、今度は、その画像のうえにタブレット上で色を付けていくという活動です。紙粘土で野菜の凸凹や葉の形を細やかに表現する面白さと、タブレット上で様々な色を付けていく面白さが融合しています。タブレットの使い方に慣れている生徒たちは色を付け、試しては消し、また、線の太さを替えたり、色を重ねて奥行きを出したりするなど工夫しながら創作していました。野菜や花など身近なものを造形的に捉え、思いを巡らせながら形にしていく作業が、毎日の子どもたちの生活になかにある美しさや面白さに気づいたり感じたりすることに繋がっていくといいなと思います。



小学部5・6年生の作品



「GIGAねんどで遊ぼう」の様子